

幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識

松尾 智 則 古賀 和 博 増 田 隆
永 淵 美香子 山 崎 篤 櫻 井 裕 介

Kindergarten Consciousness in Kindergarten Teaching Practice

Tomonori Matsuo Kazuhiro Koga Takashi Masuda
Mikako Nagafuchi Atsushi Yamasaki Yusuke Sakurai
(2018年11月22日受理)

はじめに

本稿は、先に報告した「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」^(注1)及び2017年度前学期の学生を対象とした幼稚園教育実習に関する意識調査等の結果の一部を提示して、その内容に対する実習園側の認識や意見を聴取する形式で幼稚園教育実習に関する幼稚園、幼稚園型認定子ども園、幼保連携型認定子ども園（以下、幼稚園等とする。）側の意識を明らかにすることを目的としている。同時に本学科学学生の取り組みの結果を通じて多様な幼稚園教育等での実習（実習の名称は幼稚園教育実習に統一する。）の実態と変化の動向についての情報を幼稚園等側に提供することを意図している。

調査対象及び方法

福岡県内の全ての幼稚園等（幼稚園、幼稚園型認定子ども園、幼保連携型認定子ども園）の計458園を対象として平成30年3月に質問紙を郵送した。

回収数は平成30年5月までに206件で回収率は45%であった。回答形式は選択肢形式と自由記述形式を併用している。

調査内容と結果

質問項目は枝質問を加えて計26問となっている（但し、フェースシート項目4問を含む）。以下、質問紙順に結果を明らかにする。なお、資料として提示した学生アンケートの結果の詳細は注に基づき前掲の「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」の該当部分を参照されたい。

また、アンケート用紙の内容は論文末に掲載している。

(1) 幼稚園教育実習の実習内諾依頼について

実習園確保の観点から、実習先の内諾確保の時期が次第に早まることに対して、学生達は「もっと遅いほうが良い」（55.5%）（論文末アンケート表2参照）と否定的な意見が多く見られる。しかし、幼稚園等側の意見（表1）^(注2)を見ると「今のままで良い」が前学期（78.6%）、後学期（79.6%）とほぼ8割に上っており、制度を変更するよりも、学生の指導を充実するほうが効果的であると思われる。また、自由記述は37件あり、内容は、「電話・訪問の際にきちんと話せるように指導してください。学校名、名前、要件（要件）、挨拶など。」のように電話や訪問の手順やマナーに関する要望が中心であった。

表1. 幼稚園教育実習依頼時期

	前学期		後学期	
	実数	構成比%	実数	構成比%
もう少し早い方が良い	11	5.3	16	7.8
今のままで良い	162	78.6	164	79.6
もう少し遅い方が良い	26	12.6	19	9.2
わからない	6	2.9	6	2.9
無回答	1	0.5	1	0.5

設問 Q1-1. 前学科幼稚園教育実習（5月末から6月）内諾依頼の時期（10月末から12月）は

設問 Q1-2. 後学科幼稚園教育実習（10月）内諾依頼の時期（1月から3月）は

(2) 事前事後指導等について

2016年の学生アンケートから見ると、事前事後

指導で役に立ったものは、上から「先輩の作品集」(84.7%)、「先輩の実習記録」(64.65%)、「指導案の書き方」(56.0%)、「日誌の書き方」(53.1%)、「実習生としての心構え、役割に関する知識」(47.8%)となっているが(論文末アンケート表4参照)^(注3)、表2^(注4)に示しているように幼稚園等側の考えとしては「心構え・役割に関する知識」が3項目とも「非常に重要」としている割合がほぼ50%を越えており、「重要」との合計では100%に近い数値となっている。次いで、10ポイント低い群として「指導案の書き方」、「日誌の書き方」、「幼児指導の具体的留意点」が挙げられており、更に10ポイント近く低い群として「実習の流れについての見通し」、「事前準備についての知識」が挙げられる。一方指導案作成や日誌作成のベースとなる、「先輩の作品集(情報共有)」や「先輩の実習記録(モデル理解)」の評価が低い反面で、「手遊びのビデオとプリント(保育実技体験)」は半数近くが評価している。このように学生は具体的事例と方法に興味が集中している一方で、幼稚園等側は「心構え・役割の知識」に焦点が当てられており、このズレを調整していくことが、より効果的な事前事後指導と幼稚園教育実習の実施に繋がっていくと考えられる。

自由記述は68件で、約3分の1の園が記入しているが、最も多いのは「社会性や行動」関係の20件で、次いで、「意欲・積極性」関係の13件、「日誌・指導案」関係の12件、「ピアノ・手遊び等の技術」関係6件などが挙げられており、前述の結果を裏付けていると思われる。

(3) 幼稚園教育実習への適応状況について

学生アンケートでは、幼稚園教育実習への適応状況を「実習の好感度」と「実習中の健康状態」を指標として

探ったが、好感度は「楽しかった」と「少しは楽しかった」の合計で80%台を保っており、且つ後学期の方が「楽しかった」の比率が10ポイント程度高くなっており、安定していた(論文末アンケート表5参照)。また、健康状態に関しても「毎日健康に過ごした」と「体調を壊したが休まなかった」の合計で概ね90%台後半を維持しており、特に問題の無いことを先の論文で明らかにしたところである(論文末アンケート表6参照)^(注5)

この情報を見ての幼稚園等側の自由記述は80件であった。「普段の生活と違うので体調管理にも気をつけて欲しいと思います」など健康の重要性や心配、配慮に関する記述が最多で27件に及んでいた。次いで、「実習を通じて楽しかったと思ってもらえるように、学生さんの将来に少しでも役立てばと思います」など「楽しかった」を肯定的に受け止める意見が16件見られた。また、楽しさの定義や充実感との絡みを指摘する意見が5件見られた。「過去に比べれば好感度は上がっているようですが、人材不足の昨今では実習と言えども甘い対応をしなければならぬのが現状だと思います」など近年の学生の積極性の低下の認識から「楽しい」と「らく」の連動を危惧したと思われる意見も見られた。

(4) 実習体験内容1(全体)

先の報告で幼稚園教育実習中の指導体験として「全日保育」や「半日保育」が激減し、「朝の会や帰りの会の指導」や「給食指導」も減少し、「主活動」は若干増加し、「絵本読みや指あそびなどの一部の指導」が高水準(概ね80%台)を維持しているとの指摘をし、幼稚園教育実習の断片化が問題ではないかと論じたところである(論文末アンケート表7参照)^(注6)

この実態を踏まえての幼稚園等側の認識を問うた結果が表3である^(注7)。どの指導実習項目に関しても概

表2. 事前事後指導内容の重要度

	非常に重要		重要		あまり重要ではない		重要ではない		無回答	
	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%
保育者としての心構え・役割に関する知識	122	59.2	83	40.3	1	0.5	-	-	-	-
実習生としての心構え・役割に関する知識	131	63.6	74	35.9	1	0.5	-	-	-	-
社会人としての心構えと行動に関する知識	102	49.5	101	49.0	3	1.5	-	-	-	-
指導案の書き方	59	28.6	127	61.7	20	9.7	-	-	-	-
日誌の書き方	58	28.2	124	60.2	24	11.7	-	-	-	-
幼児指導の具体的留意点	64	31.1	124	60.2	18	8.7	-	-	-	-
実習の流れについての見通し	39	18.9	129	62.6	38	18.4	-	-	-	-
事前準備についての知識	47	22.8	124	60.2	35	17.0	-	-	-	-
先輩の作品集(先輩との情報共有)	10	4.9	67	32.5	111	53.9	16	7.8	2	1.0
先輩の実習記録(モデル理解)	11	5.3	66	32.0	113	54.9	15	7.3	1	0.5
手遊びのビデオとプリント(保育実技体験)	10	4.9	84	40.8	101	49.0	10	4.9	1	0.5

設問 Q2-1. 事前事後指導内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えは如何でしょうか。番号をお選びください。

ね、前学期より後学期に必要性を高く感じている事は、2回の幼稚園教育実習を見学実習と責任実習の概念で大きく把握している現われであると思われる。具体的な指導実習項目としては「非常に重要」と「重要」を合算すると「絵本読みや指遊びなど一部の指導」（前学期86.4%、後学期85.0%）、「主活動の部分だけの指導（設定保育）」（前学期81.1%、後学期83.5%）が上位を占めており、学生の指導実習実態と連動していることが窺える。「全日保育」、「半日保育」の必要意識が「非常に重要」と「重要」の合計で前学期が60%台、後学期が70%台あるにもかかわらず、その意識以上に実施実態が低下している原因について自由記述を求めると135件の回答があり、とても関心が高い項目の一つであった。原因について整理すると、「園の多忙化」56件、「学生の力不足」33件、「学生の意欲不足」14件、「園児への配慮」12件、「園職員の指導能力・指導体制不足」8件、「幼稚園教育実習の制度的な困難」（幼稚園教育実習期間の短さ等）6件、「他の指導内容の方が良い」3件の順となっており、必要性を感じないと言うよりも幼稚園等や園児の環境変化、学生の能力と意欲の低下を感じて減少している実態が窺えるが、学生の問題より幼稚園等側の事情を理由とする方が多いことは、学生指導の改善だけでは問題の解決に繋がらないと考えられる。

一方、「その他の実習体験に関する意見」の中には、「学生の力量を養うためには全日、半日保育は必要だと思います」、「全日保育を行うことで一日の流れを把握することが重要でないか」、「大きな園では担任でなく補助として学ぶ機会があるかもしれませんが、小さな園では卒業後、担任として仕事をして頂くので、全日、半日の実習体験は重要です」など全体や就職を見越しての全日、半日保育の重要性を指摘する意見も見られた。

(5) 実習体験内容2（勉強になったこと）

学生アンケートによると、幼稚園教育実習中の各種体験への学生の評価では、「園長・主任の先生などのお話」「指導担当の先生のお話」「先生の保育する姿を見たこと」「こども達と長期間一緒にいたこと」「保護者の様子を見たこと」など間接的な学びについては評価が一時期は上がっているが、近年は低下傾向にある。一方で、体験型の「環境構成などの製作を体験したこと」「清掃などの作業を体験したこと」「設定保育をしたこと」などは評価が安定している（論文末アンケート表8参照）。

さらに2016年から選択肢の「設定保育」を細分化して見た場合に、「絵本読みや指遊びなどの一部の指導をしたこと」（72.2%）や「主活動の部分だけの指導をしたこと」（63.6%）などが大きく「全日保育」（35.4%）や「半日保育」（32.5%）を上回っている。^(注8)

しかし、幼稚園等アンケートのために更に分析した結果、体験した中で評価が高いのは、「全日保育」や「半日保育」であるとの分析結果を追加した。（論文末アンケート表8参照）

これに対する幼稚園等側の自由記述は80件であった。内容は多岐に渡っているが、「全日・半日保育は大切、増やしたい」との意見が20件、「沢山の体験をして欲しい」との意見が8件、「見て学ぶことの大切さ」を指摘する意見が7件、「能動的学習」を評価している意見が6件、「反省会等の指導」を重視している意見が4件などであった。少数であるが、注目する意見としては、「学校によっては「学生に無理の無い程度で」と言うところもあり対応に困っている」や「統一のルールを作るべき」があった。学生の実習を完遂させたい養成校側の思惑や幼稚園教育実習の標準化への期待が感じられるものである。

表3. 実習体験内容の重要度

	前学期								後学期									
	非常に重要		重要		あまり重要ではない		重要ではない		非常に重要		重要		あまり重要ではない		重要ではない		無回答	
	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%
全日保育	51	24.8	79	38.3	62	30.1	14	6.8	83	40.3	66	32.0	45	21.8	12	5.8	-	-
半日保育	49	23.8	87	42.2	60	29.1	10	4.9	74	35.9	84	40.8	37	18.0	11	5.3	-	-
朝の会や帰りの会	40	19.4	115	55.8	45	21.8	5	2.4	50	24.3	108	52.4	42	20.4	5	2.4	1	0.5
主活動の部分だけの指導（設定保育）	72	35.0	95	46.1	34	16.5	5	2.4	88	42.7	84	40.8	29	14.1	5	2.4	-	-
給食だけの指導	18	8.7	75	36.4	92	44.7	21	10.2	29	14.1	70	34.0	87	42.2	20	9.7	-	-
絵本読みや指遊びなど一部の指導	70	34.0	108	52.4	27	13.1	1	0.5	78	37.9	97	47.1	28	13.6	3	1.5	-	-

設問 Q4. 実習体験内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えはいかがですか。

(6) 実習訪問について

学生アンケートによると、実習訪問への学生の要望は概ね年を追って上昇している。(論文末アンケート表9参照)^(注9)。

これに対する幼稚園等側の自由回答は83件あった。幼稚園等側の認識としては「学生のサポート」としての実習園訪問と「幼稚園等と大学の情報交換の場」としての位置づけが各22件で最も多い。次いで「訪問者のあり方への要望」(8件)や「訪問時期への要望」(4件)が挙げられている。

(7) 実習中の登降園時間について

学生アンケートによると、実習生の登当園時間については実習園の指定は午前7時から8時40分の間の時間が指定されており、最も多いのは8時の52.2%、次いで、8時30分の12.3%、7時30分の7.9%となっており、ほぼ1時間の幅があった。一方、降園時間は、午後3時から午後7時15分の間の時間が指定されており、最も多いのは午後5時の62.1%、次いで、午後4時30分の15.8%、午後5時30分の6.9%となっており、4時間15分の幅があり、幼稚園教育実習学生の降園後の作業等の時間的ゆとりにも影響していることが考えられる(論文末アンケート表10、11参照)。

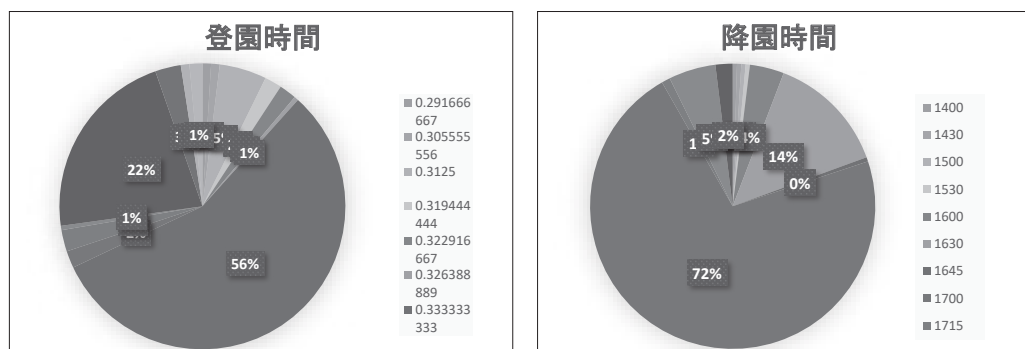
これに対して、実習園が考えている登降園時間は表4のとおりであった。登園時間に関しては、午前7時から9時30分の間の時間が指定されており、最も多いのは午前8時の57.1%、次いで午前8時30分の22.2%、午前7時30分の5.4%となっており、2時間30分の幅が

あった。降園時間に関しては、午後2時から午後5時30分の間の時間が指定されており、最も多いのが午後5時の71.8%、次いで午後4時30分の13.6%、午後5時30分の5.3%となっており、3時間30分の幅があった。^(注10) 学生アンケートの対象園と幼稚園等アンケートの対象園は同一でない為、学生が指示を受けた登降園時間と園が望ましいと考える登降園時間にズレが生じることは想定していたことであるが、登園時間に関しては登園時間が後ろにずれている園が若干ある以外はほぼ同等の傾向と見て取れる。降園時間に関しては、ピークは学生アンケートの回答と幼稚園等アンケートの回答はほぼ同等であるが、学生の認識として当初指定された時間と実習中に実態に応じて日ごとに指示された時間の混同があり、時間の幅か広がっているのではないかと考えられる。

登降園に関する幼稚園等側の自由記述は46件であった。「実習園の勤務時間と同様で良い」など職員と同様の勤務時間を考えているという内容が18件、「行事準備への協力」や「反省会」などで遅くなるという内容が5件あった。一方で「別扱いしている」や「学生なので子どもと同じ時間」「なるべく早く帰す」との意見や「迷っている」、「大学の方針に従いたい」という意見も見られてきわめて多様であった。その他、時間とは関係ないが、登降園関連として公共交通機関以外の使用に関する賛否も挙げられていた。

この様に、実習生の位置づけも多様で、幼稚園等の一日のスケジュールや行事の準備等の関係で実習学生の登降園の時間の変動があることは避けえないが、高等教育

表4. 望ましい登園時間と降園時間



登園時間	7:00	7:20	7:30	7:40	7:45	7:50	8:00	8:10	8:15	8:20	8:30	9:00	9:30	無回答
	2	2	11	4	4	1	116	4	5	1	45	6	2	3
構成比%	1.0	1.0	5.4	2.0	2.0	0.5	57.1	2.0	2.5	0.5	22.2	3.0	1.0	
降園時間	1400	1430	1500	1530	1600	1630	1645	1700	1715	1730	無回答			
	1	1	1	1	8	28	1	148	2	11	4			
構成比%	0.5	0.5	0.5	0.5	3.9	13.6	0.5	71.8	1.0	5.3	1.9			

※構成比は無回答を除く

設問 Q7基本的登園時間と降園時間は何時頃が望ましいとお考えでしょうか。

における教育実習という観点からは実習時間数の管理やその後の活動時間の確保からある程度の標準化を目指すことも今後の課題であると思われる。

(8) 実習中の睡眠について

実習中の平均睡眠時間は5時間未満が46.3%、5～6時間が36.0%の合計で6時間以下が82.3%であった(論文末アンケート表12、13参照)。

これに対する幼稚園等側の自由記述は105件であった。「実習期間中なのであたり前だと思います」など睡眠不足を普通のことと捉える内容が22件で最も多く、次いで「実習日誌を簡略化して記述するように……」など日誌の簡略化・効率化や日誌作成指導の充実を求める内容が18件、学生の健康を気遣う内容が17件、その他、実習における勤務時間や勤務内容の見直しに言及している内容が15件あった。又、個人差や事前の準備不足、個人的理由の可能性や自己責任に触れている意見も少数であるが見られた。睡眠不足をあたり前のことととらえる意見が最大ではあるが、2割程度にとどまっており、気づかいや日誌の改善や勤務体制の改善に言及している意見が多くみられることは実習現場の幼稚園等においても幼稚園教育実習の現状に危機意識を持っていることの表れではないかと思われる。但し、実習の成果を考えると単純な負担の軽減は質の低下を招きかねないので、養成校と幼稚園等側でより具体的な調整が必要であると考えられる。

(9) 園務・作業等の内容について

学生アンケートによると、学生が体験した園務、作業は、「配属保育室清掃」が86.2%、「トイレ清掃」が76.4%、「園庭整備」が64.5%、「配属外保育室清掃」が58.6%の順となっており、それ以外の内容は30%以下となっていた(論文末アンケート表14参照)。

是非必要な園務や作業体験に関する幼稚園等側の自由記述は170件と非常に多くの回答があった。「清掃・環境整備(全般)」が74件で最も多く、次いで「保育室清掃」が60件(配属外保育室と明記したものがその他に7件)、「園庭清掃・整備」が34件、「トイレ清掃」が30件で上位は清掃・整備関係が占めていた。続いて、「壁面製作」が21件(他に、「環境構成」が10件、「他の装飾製作」が10件、「カレンダー製作」が2件などの製作関係があった。)、 「行事準備・参加」と「保育準備」が各19件で、ここまでが園児とあまり接触しない内容となっている。さらに、「預かり保育」と「バス添乗・徒歩降園引率」が各12件、「園外保育引率」が11件等となっていた。

大学での事前指導においても清掃の大切さは具体的に

言及し、指導しているところであるが、幼稚園等側の重視姿勢はその想定を上回る場所であった。

その他の「アンケート表14を見ての自由意見」としては47件が挙がっていた。「特にトイレ清掃は重要でず」や「清掃の仕方も評価の一つです」など清掃の重要性や必要性に言及しているものが最も多い11件で、次いで「多種多様な仕事があることを知る良い機会です」など園務の多さや体験の大切さに触れているものが6件、「行事前でしたら行事のための準備に必要な作業(教師として必要なものを)」など行事準備の大切さや必要性に触れているものが3件である一方、「清掃の割合が飛び抜けて多く、とても残念です」、「日誌が大切なら、清掃をやらせないで日誌を書かせても良いかな、と」などの逆の意見も6件あった。また、責任・安全の問題からバス添乗や降園引率や預かり保育担当に否定的な意見も2件見られた。特徴的なものとしては「実習は見習い、修行の始まり、心構え、身構え、気構えをつけて来る」という意見と「私たちの時代は雑用ばかりでした。だからこそ、そればかりでなく教育の学びになることを体験してほしいです」という意見があり、幼稚園等における幼稚園教育実習の位置づけについての幅の広さが浮き彫りになっている。

(10) 園から受けた指導内容(論文末アンケート表15参照)

学生アンケートによると、「クラス担任による反省会」が最多で、85.7%、次いで、「日誌の添削」が82.3%、「指導案の添削」が73.9%となっている。指導実習を行っていない幼稚園等もあるので、「日誌の添削」と「指導案の添削」の差は実際にはもう少し小さいと思われる。

幼稚園等側が是非必要と考える指導内容についての自由記述は166件であった。

「クラス担任による反省会・指導」が108件で最多であった(他に範囲を特定していない反省会が13件)。次いで、「実習日誌の添削」が76件、「指導案の添削」が68件で突出していた。その他は、「複数の職員が参加した反省会」が26件、「園長・主任からの話」が13件であった。その他の意見については35件であった。内容は、多岐にわたっていたが、「学生の積極性の不足」、「準備不足の認識」と「学生への期待」に言及するものが8件であった。

このように実習生の指導はクラス担任がその中心を担っており、園長・主任によるサポートは比較的に少ないことが見て取れる。一方でその状況を危惧して「クラス担任による反省は、その日の動き等による反省だが、全体を見た時、園長・主任による助言が必要だと感じる

(クラス担任が未熟な場合が考えられる事も)」や「実習生を受け入れるにあたっては、ベテランでなければ無理だと考えます」などの意見も見られた。現実には加えて、園の職員構成状況から新規採用職員が指導担当者となる例も散見されており、クラス担任に大きく依存する指導体制は、幼稚園と学生の双方に負担が大きくなることが危惧される。

(11) 実習日誌の返却について

学生アンケートによると、「すぐに返却された」が41.4%、「数日後に返却された」が45.8%で数日以内に返却される例が大半であるが、「最後にまとめて返却された」が4.4%、「その他」が3.4%あり、合わせると8%近くになり、例外的とはいえ数になっているのではないかと考えられる(論文末アンケート表16参照)。

日誌の返却の形式についての自由記述は166件あったが、日々の返却と最終的な返却の二つの解釈が混在していたので、明らかに日々の返却について言及しているものに限定すると147件であった。内容は実態と願望が混ざった回答ではあるが、「その日のうち」が10件、「すぐ・そのつど」が21件、「翌日・次の日」が63件で回答の約64%が早期の返却の実施や必要性を感じていた。次いで、数日後が34件で、業務等のために早期の返却が難しいことに言及していたものが多く見られた。また、担任だけの閲覧・添削だけではなく主任・園長の閲覧を行っているため時間がかかることに言及している回答も複数見られた。一方で、「1週間後」2件や「まとめて」3件などあまり期間にこだわっていない回答も見られた。

日誌指導についての幼稚園等側の自由記述は68件であった。一番多いのは、「国語力・文書作成能力の改善要望」で19件、ついで、「記載内容の充実に関する要望」が9件、「学生の負担軽減とそのためのパソコンの活用の可能性」が11件であった。大学への要望としては、「実習日誌の書式改善」4件、「指導の充実」3件であった。また、「宝物になる」等日誌の価値についての言及も6件あった。

実習日誌の閲覧・添削指導は、学生の学習内容の確認のほかに保育者としての文書作成能力の指導まで含まれるために負担の多い業務である中、クラス担任や園長・主任に過分な御配慮をいただいているのが現状であろうと思われる。養成校と実習園で日誌指導の効率化の模索をしなくてはならないところであろう。

(12) フェースシート

アンケート回答幼稚園等の属性は以下の通りである。

①幼稚園(認定こども園)の所在地

今回の調査は福岡県内の全ての幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園を対象としたが、回答の構成は表6^(注11)のように、福岡市内60園(29.1%)、福岡市を除く福岡県内146園(70.9%)であった。

②設置者別は表7^(注12)の通り、公立23園(11.2%)、私立183園(88.8%)であった。

③最近5年間における本学科の実習生の有無

今回のアンケートは一般論としての幼稚園等の幼稚園教育実習に対する意識の実態を調査するものであったが、使用した学生アンケートが本学学生の実習実績であるために特にこの項目を設けた。結果は表8^(注13)の通りで、「引き受けたことがある」が75.2%であった。本園との園が薄い「引き受けたことが無い」また「不明」の園からも51件に上る回答を頂いて感謝するところである。

また、本学科の実習生に対する評価についての自由記

表5. Q11-2日誌添削後指導の指導

	実数	構成比%
添削に基づく削除(消去)・修正を求める	147	71.4
特に指導しない	43	20.9
無回答	15	7.3

設問 Q11-2日誌添削後指導の指導についてどのようにお考えでしょうか。一つお選びください。

表6. 貴幼稚園(こども園)の所在地

	実数	構成比%
福岡市内	60	29.1
福岡県内(福岡市を除く)	146	70.9

設問 Q12-1貴幼稚園(こども園)の所在地

表7. 設置者区分

	実数	構成比%
公立	23	11.2
私立	183	88.8

設問 Q12-2設置者区

表8. 最近5年間の間に本学科の実習生を引き受けたことがあるか

	実数	構成比%
引き受けたことがある	155	75.2
引き受けたことはない	42	20.4
不明	9	4.4

設問 Q12-3最近5年間の間に本学科の実習生を引き受けたことがある。

述は76件であった。実習生等に対する高評価を頂いたものが43件、大学の取り組みに高評価を頂いたものが12件で大変ありがたい結果であったが、学生への要望（7件）や本学科に限らない学生の意識・能力の低下（5件）や個別の学生の問題の指摘（2件）などもあり、今後更なる指導の充実に努めなければならないと考える。

おわりに

今回、これまで学生や幼稚園等との接触によって感覚的に感じていた幼稚園教育実習に関する幼稚園等の意識と実態について改めて統計的にデータを収集することができた。これらを元に養成校としての取り組みや実習先である幼稚園等との共通理解の向上を図り、より効果的な幼稚園教諭養成の仕組みを作り上げていかなくてはならないと考える。

上記の内容から得られた課題・問題点は以下の通りである。

- ①事前事後指導の重要性について学生と幼稚園等の側に乖離が見られる。これは幼稚園教育実習に対する双方の認識にずれがあることが原因と思われるので共通認識を作っていくことが求められる。
- ②実習の適応状況については、幼稚園等の側も学生の健康状態についての憂慮があることや、「実習がたのしい」という評価について肯定的な意見がある一方、このような考え方を警戒する意見も見られた。一見、些細なことのように見えるが、厳しい課題に向き合いそれを乗り越えて行くものなのか、明確化された導きの下に主として成功体験の積み重ねによって成長していくものなのかといった実習の在り方についての本質的な意見の相違を背景に潜ませている可能性があり、幼稚園等との深い意見交換と認識の共有が必要と思われる。
- ③実習体験内容に関しては学生アンケートに見られる「設定保育」と「一部の指導」へ重点を置いた実施状態と園の重視度が連動している様子が窺えた。
- ④「全日保育」や「半日保育」はその重要性に対する認識よりも実施実態が低下していた。低下の原因は園側の環境要因と学生側の要因があり、特に園側の環境要因が大きく述べられているので、単純に状況変化を期待することは難しい。しかし、「全日・半日保育は大切、増やしたい」という意見も多数見られるので、何らかの対応策や代替策を幼稚園等との協議によって探っていく道も残されているように感じられる。
- ⑤実習訪問については、「学生のサポート」と「園と大学の情報交換の場」として比較的肯定的に受け止めら

れている。

- ⑥登降園時間については、登園については園が考える時間の幅が2時間30分、降園に関しては3時間30分の幅があった。この幅の原因は実習生の位置づけを職員同等と見るかどうかによる様であった。これも実習の基本的枠組みの認識の差と考えられる。
 - ⑦実習中の睡眠時間については、睡眠不足が当たり前という考え方や睡眠時間確保のための実習の効率化や勤務時間・勤務内容の見直しに言及している意見が見られ、ここにも実習の基本的枠組みに関する認識の差が見られる。
 - ⑧重要な園務・作業等の内容については「清掃・環境整備」関係が群を抜いている。保育及び子どもたちの安全確保の為に環境整備が重要であることも異論の無いところであるが、そこには、専門性と密接に接合した構造化した体験と・学びが存在しなくてはならないのではないかと考えられる。しかし、沖原^(注14)が103カ国の学校掃除に関する比較研究で明らかにしているように、アジア諸国、その中でも特に日本が清掃体験を通しての教育を重視していることは所与のところである。その結果、現状は暗黙の共通理解に基づく「清掃を開悟の手段、人間修行の重要な方法とみる掃除観」^(注15)が優位を占めているのではないかと考えられる。より専門性の高い保育者養成のためには、環境整備の重要性を考えると幼稚園等の側と大学側で清掃に関する概念・内容・指導についての認識のすりあわせをする必要があるのではないかと考える。
 - ⑨幼稚園等から受けた指導内容は「クラス担任による反省会・指導」が最多で、（背後に園長や主任が控えていることはあるにしても）組織的な対応の回答は比較的少なく、クラス担任の力量に依存していることが窺える。看護師その他の専門職においては実習指導者の資格等が設定されており、保育士養成にも指導者資格の必要性が議論されているところである。安定的な実習生指導のために、手探りの実習指導担当者としてクラス担任を疲弊させないために何らかの仕組みが必要ではないかと考える。
 - ⑩日々の実習日誌の返却については、大部分の幼稚園等が早期の返却を重視しているが、これも慣れないクラス担任には過度の負担を強いている様子が窺える。返却システムの標準化や効率的な添削指導システムの開発と普及によってクラス担任の物理的・心理的負担を軽減すると共に指導を効率化することが必要と思われる。
- 以上のことから、極めて多様性のある幼稚園等での幼稚園教育実習と統一的指導になりがちな養成校での事前事後指導を含む教育の積極的すり合わせが必要である事

が明らかとなった。保育士資格に於いては、保育士養成協議会から保育実習指導のミニマムスタンダードが2007年に発刊され、2018年に Ver.2が出された。この中では、他の専門職における実習指導者講習や厚生労働省児童家庭局通知である保育実習実施基準についても触れられ、さらに保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの捉え方と実習評価表の項目について言及している。幼稚園教育実習においても養成校と実習実施園双方の実習指導者同士での協働の必要性が高まっている。

そこで、統一は困難であっても、最低限の幼稚園教育実習のモデル形成とその周知、ひいては、養成校での教育内容、教育実習の内容、採用内定者事前研修の内容、新任者研修の内容、実習指導者の育成を一貫したものと捉えて、養成校と幼稚園等団体組織が協調して作り上げていくことが今後の課題になると思われる。

引用・注釈

注1. 「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」松尾智則、増田隆、久原広幸、久松薫 『中村学園教職教育研究』第2号 中村学園大学・中村学園大学短期大学部教職教育センター 平成30年3月 pp.15-19

なお、表に使用されているデータは、1993-2003年までは「幼稚園教育実習に関する意識調査」松尾智則、pp.47-52、中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第37号2005、2013-2015までは「幼稚園教育実習に関する意識調査2013-2015」松尾智則 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第49号2017 pp.57-63、2016年については「幼稚園教育実習に関する意識調査2016」松尾智則 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第50号2018 pp.39-45の再掲である。

注2. 「幼稚園アンケートの結果について」松尾智則 平成30年度教員免許更新講習【選択講習】『幼稚園教諭養成の現状と課題』配布資料 2018.8.23 p.1

注3. 同上

注4. 前掲「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」 p.16

注5. 同上 p.17-18

注6. 同上 p.18

注7. 前掲「幼稚園アンケートの結果について」 p.1

注8. 前掲「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」 pp.18-19

注9. 同上 p.19

注10. 前掲「幼稚園アンケートの結果について」 p.2 ※一部作表を修正している。

注11. 前掲「幼稚園アンケートの結果について」 p.2

注12. 前掲「幼稚園アンケートの結果について」 p.2

注13. 前掲「幼稚園アンケートの結果について」 p.2

注14. 「各国の学校掃除に関する比較研究」沖原 豊他7名 日本比較教育学会紀要 3号 1977 pp.37-46

注15. 同上 p.43

幼稚園教育実習に関する幼稚園アンケート

このアンケートは本学科が実施している幼稚園教育実習に関する事前・事後指導の内容と学生が体験した幼稚園教育実習の実態に関するアンケート結果(25年間約5000名、11月下旬から12月上旬及び7月実施)を紹介して、それに対する幼稚園側のお考えを御伺いして、今後の幼稚園教育実習の事前・事後指導の内容改善などに資する情報を得ることを目的としています。結果は統計的に処理して個別の幼稚園を特定することは一切ありませんので御忌憚無い御意見をお寄せください。回答は添付の回答票に記入して、内封筒に密封の上、返信用封筒にて4月30日までに御投函ください。

(アンケートに関する問い合わせ窓口 松尾智則 TEL092-851-2531(内線 351)

E-mail:tmatsuo@nakamura-u.ac.jp



中村学園大学短期大学部
幼児保育学科

はじめに

表1のアンケート結果は前に記載しているように11月下旬から12月上旬の状態での最終ではございませんが、約四半世紀に亘りほぼ一貫して保育者(幼稚園教諭・保育士)の養成と幼稚園等への人材の供給に努めていることを示しています。また、近年幼稚園就職が若干減少しているように見えますが、福岡県下や県外の幼稚園のこども園化の影響が統計に表れていると思われるので、依然として幼稚園への人材供給に一定の役割を果たしていると考えています。このことを踏まえてアンケートへの御協力を重ねてお願い申し上げます。

表1 学生の進路(決定・希望)属性(構成比%)

実施年・対象	幼稚園	保育所	施設	こども園	幼稚園又は保育	一般企業	わからない	その他	無回答・無効回	進学
1993(92C)	30.6	35.6	1.9		6.0	18.1	3.2	3.7	0.9	
1994(93C)	30.6	33.5	0.5		17.0	7.3	2.4	4.9	2.9	
1995(94C)	36.2	34.2	1.5		11.7	6.6	3.1	3.1	1.0	
1996(95C)	35.0	27.1	0.5		13.1	9.8	8.9	3.3	2.3	
1997(96C)	39.6	31.9	0.8		10.8	5.4	6.9	2.7	1.9	
1998(97C)	34.4	34.9	0.5		15.3	5.1	6.5	2.3	0.9	
1999(98C)	29.0	25.0	2.0		20.5	5.0	11.0	4.0	3.5	
2000(99C)	41.3	30.1	1.5		11.2	3.4	8.3	2.9	1.5	
2001(00C)	42.9	33.3	2.6		11.6	3.2	3.2	2.6	0.5	
2002(01C)	36.5	43.9	1.1		10.1	2.6	2.1	3.2	0.5	
2003(02C)	34.6	41.3	0.6		11.2	1.7	3.9	6.7	0.0	
2004(03C)	39.8	34.0	2.6		12.6	4.2	4.7	2.1	-	
2005(04C)	42.2	37.2	0.5		6.0	6.0	4.6	3.2	0.5	
2006(05C)	45.9	33.6	1.8		4.5	2.3	5.9	5.0	0.9	
2007(06C)	41.4	37.1	0.5		7.5	1.1	6.5	5.9	-	
2008(07C)	38.0	36.5	7.0		6.5	2.5	4.0	2.5	1.0	
2009(08C)	33.9	41.1	0.5		15.1	3.1	2.1	0.5	0.5	
2010(09C)	36.2	50.5	1.6		5.9	0.5	2.1	3.2	-	
2011(10C)	39.1	39.1	1.0		8.9	2.1	5.7	4.2	-	
2012(11C)	34.7	45.9	3.6		7.1	1.5	2.0	5.1	-	
2013(12C)	38.2	43.7	0.0		7.5	2.0	1.5	7.0	-	
2014(13C)	36.4	49.2	2.1		3.1	2.1	2.6	4.6	-	
2015(14C)	26.2	45.6	4.6	13.3		1.0	6.2	2.1	1.0	
2016(15C)	33.0	49.8	1.9	9.6		4.3	0.5	-	0.5	0.5

* 設問『あなたの就職先(未定者は希望)はどこですか。当てはまる番号を一つ選んでください。』 ※ 2015から選択肢「こども園」新設、「幼稚園又は保育園」廃止

1.幼稚園教育実習の実習内諾依頼について

本学科では毎年教育実習実施の前年 10 月に第 1 回目のオリエンテーションを実施し、同 10 月に「前学期幼稚園教育実習内諾依頼オリエンテーション」、翌年 1 月に「前学期幼稚園教育実習内諾依頼オリエンテーション」を行い、原則として前学期幼稚園教育実習の内諾依頼のための訪問は 10 月末から 12 月に、後学期幼稚園教育実習の内諾依頼のための訪問は 1 月から 3 月に行うように指導しています。

大学の学生の意識は表 2 の通りです。

貴園のお考えはいかがでしょうか。

Q1-1 前学科幼稚園教育実習(5 月末から 6 月)内諾依頼の時期(10 月末から 12 月)は

- 1. もう少し早いほうがいい。
2. 今のままでいい
3. もう少し遅いほうがいい
4. わからない

Q1-2 後学科幼稚園教育実習(10 月)内諾依頼の時期(1 月から 3 月)は

- 1. もう少し早いほうがいい。
2. 今のままでいい
3. もう少し遅いほうがいい
4. わからない

Q1-3 内諾依頼訪問に関してその他、気になる点がありましたら自由にお書きください。

表2 実習園を決める時期(構成比)

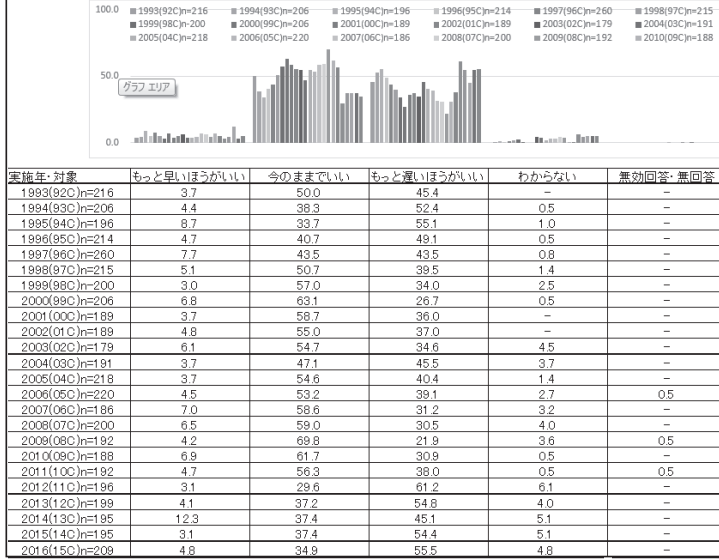


Table with 6 columns: Year/Question (e.g., 1993(92C)n=216), and 5 response categories: 'もっと早いほうがいい', '今のままでいい', 'もっと遅いほうがいい', 'わからない', '無効回答・無回答'. Rows list years from 1993 to 2016.

※ 設問『実習する幼稚園を決める時期についてどう思いましたか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

2.各種オリエンテーション・事前事後指導等について

本学科では全学を挙げて保育者養成に取り組んでいますが、その中でも幼稚園教育実習へ向けた直接の取り組みとしては以下の事を行っています。

- 1.付属幼稚園参観、付属保育園参観(1 学年前学期)
2.付属幼稚園体験保育(半日)(1 学年夏休み期間中の 9 月)
3.幼稚園教育実習希望調査オリエンテーション(1 学年 10 月)
4.前学期幼稚園教育実習内諾書配布オリエンテーション(1 学年 10 月)
5.後学期幼稚園教育実習内諾書配布オリエンテーション(1 学年 1 月)
6.幼稚園教育実習研究(事前事後指導 15 回)(2 学年 4 月から 12 月)
7.前学期幼稚園教育実習直前オリエンテーション(2 学年 4 月)
8.前学期幼稚園教育実習直前オリエンテーション(2 学年 7 月)

各回の幼稚園教育実習研究(事前事後指導)の内容は表 3 の通りです。

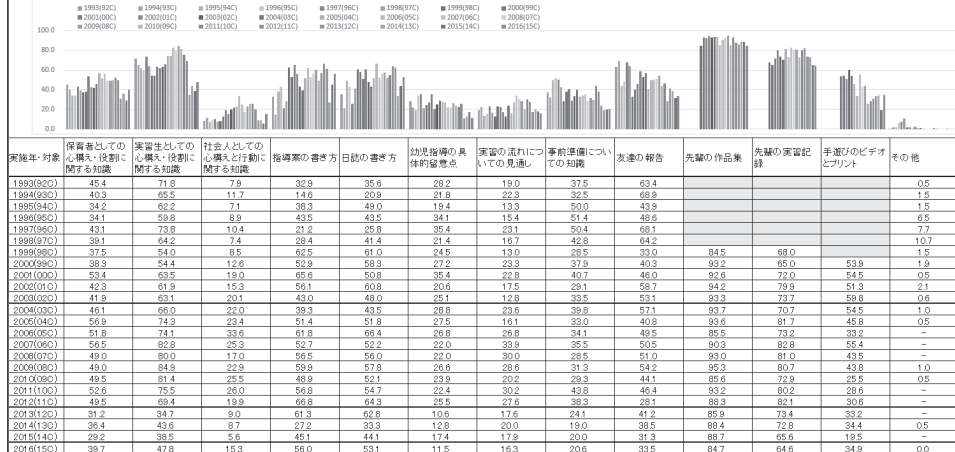
また、事前事後指導に関する学生の評価は表 4 の通りです。

表3 幼稚園教育実習研究の内容

Table with 2 columns: '内容' (Content) and '学生による活動部分' (Activity parts by students). Lists 15 items including orientation sessions, research reports, and practice field work.

※その他に先輩の記録の伝承のための印刷活動、クラスの自己記録の印刷活動等

表4 幼稚園教育実習研究で役に立ったこと(出現率)



※ 設問『幼稚園教育実習研究の授業の中で役に立ったのはどんなところですか。当てはまる番号を 幾つでも選んでください。』

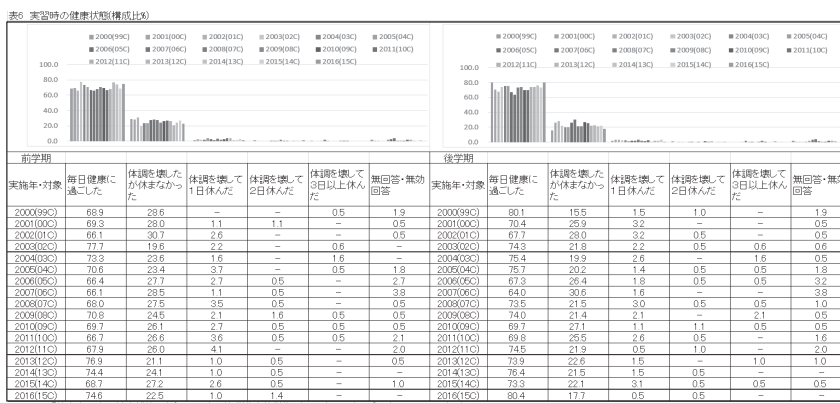
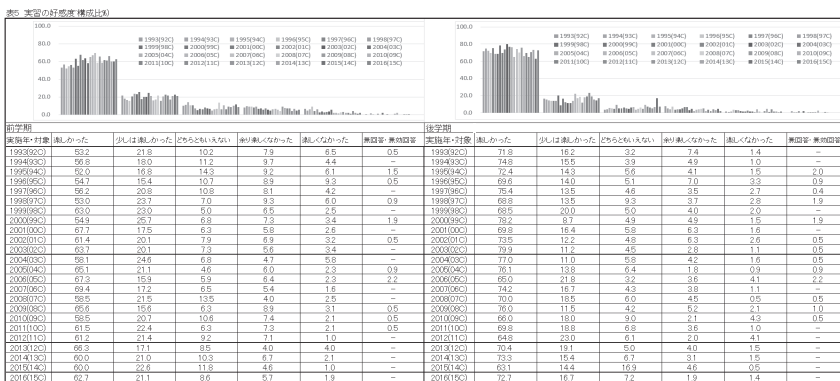
Q2-1. 事前事後指導内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えは如何でしょうか。番号をお選びください。

Table with 4 columns: Item, 1(非常に重要), 2(重要), 3(あまり重要ではない), 4(重要ではない). Rows include items like '保育者としての心構え・役割に関する知識' and '実習の流れについての見通し'.

Q2-2. その他、事前事後指導の内容等について御意見が有りましたら自由にお書きください。

3. 教育実習への適応状況について
幼稚園教育実習への適応状態を好感度と健康状態を指標として表したものが表5と表6です。

Q3. 教育実習への適応状況に関して御意見が有りましたら自由にお書きください。

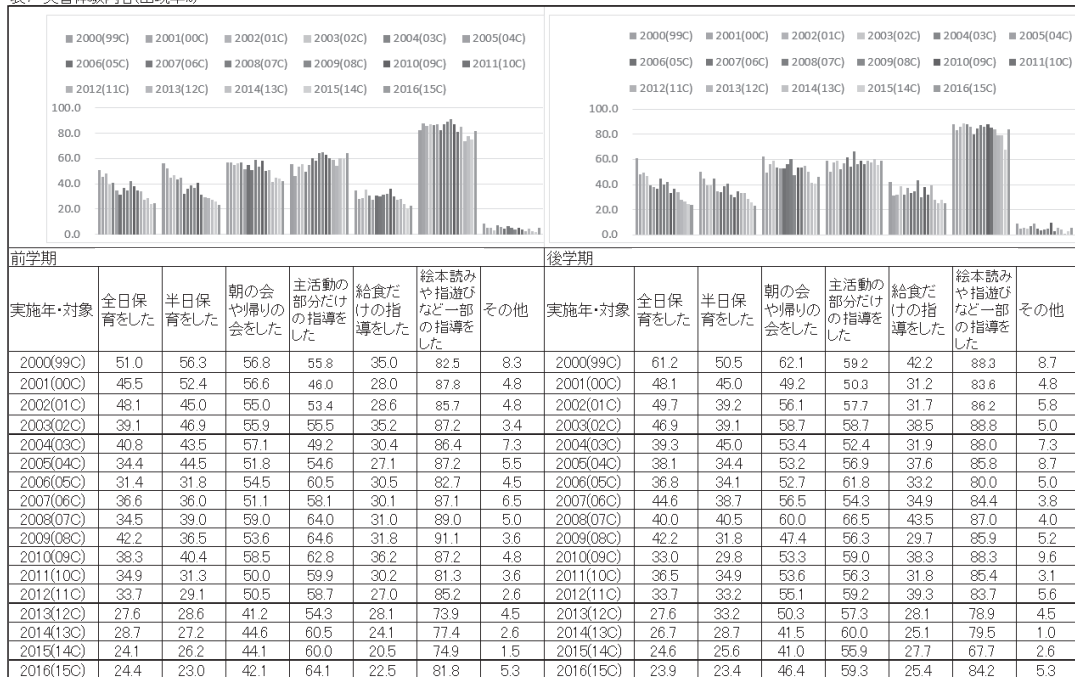


※ 訪問【教育実習中の健康状態】はどうか、前学期と後学期別々に当てはまる番号を一つ選んでください。

4.実習体験内容 1(全体)

実習体験内容の変化を示しているのが表7です。17年間で様変わりしている様子が明らかです。具体的には全日保育や半日保育体験が半減し、朝の会や帰りの会や給食指導が減少し、主活動(設定保育)が微増し、絵本読みや指遊びなどの一部の指導が突出することになっています。

表7 実習体験内容(出現率%)



※ 設問『教育実習中に時間をもらって指導実習をしましたか。前期と後期別々に当てはまる番号を 幾つでも選んでください。』

実習体験内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えはいかがでしょうか。番号をお選びください。

Q4-1(前学期幼稚園教育実習において)

- | | | | | | |
|----------------------|-------|----------|------|-------------|----------|
| 1. 全日保育 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 2. 半日保育 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 3. 朝の会や帰りの会 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 4. 主活動の部分だけの指導(設定保育) | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 5. 給食だけの指導 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 6. 絵本読みや指遊びなど一部の指導 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |

Q4-2.(後前学期幼稚園教育実習におい

- | | | | | | |
|----------------------|-------|----------|------|-------------|----------|
| 1. 全日保育 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 2. 半日保育 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 3. 朝の会や帰りの会 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 4. 主活動の部分だけの指導(設定保育) | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 5. 給食だけの指導 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 6. 絵本読みや指遊びなど一部の指導 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |

て)

Q4-3 全日保育や半日保育が減少した理由をどのようにお考えですか。御意見が有りましたら自由にお書きください。

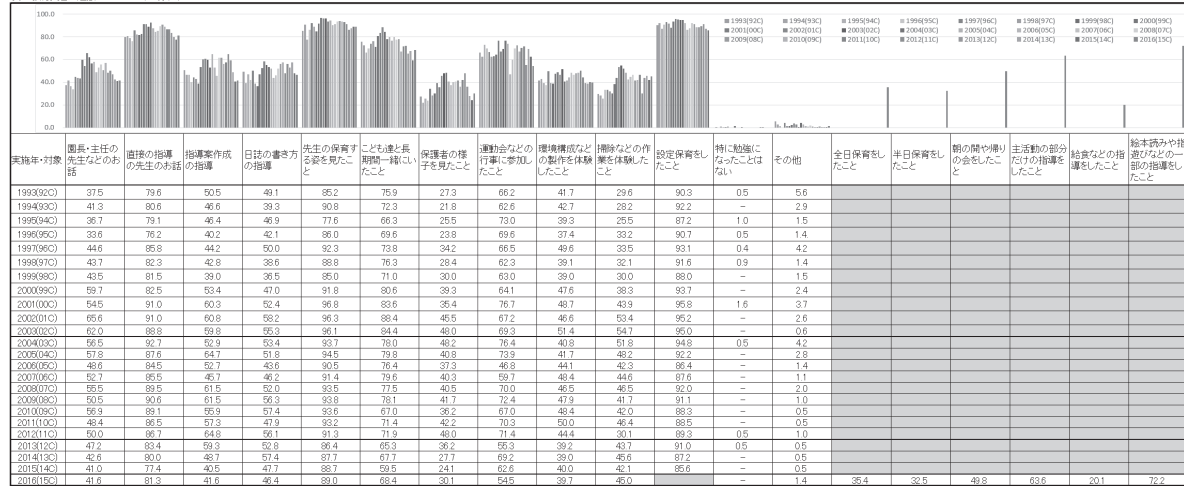
Q4-4 その他実習体験内容について御意見が有りましたら自由にお書きください。

5.実習体験内容 2(勉強になったこと)

学生が教育実習において勉強になったと認識している項目の変化を示しているのが表 8 です。学生の中には体験していないために評価できない項目も含まれてはいると思われませんが、「お話」、「姿を見た」など受動的学習については近年明らかな減少傾向にある一方、「した」などの能動的学習は評価を維持している傾向が見られます。また、2016年に設定保育を分割して項目を設定した結果では「絵本読みや指遊びなど一部の指導をした」「主活動の部分だけをした」が上位を占めていますが、表7とクロスしてみると体験した中で評価が高いのは「全日保育」「半日保育」でした。

Q5.このような状況に関して御意見が有りましたら自由にお書きください。

表8 教育実習で勉強になったこと(出現率%)



※ 設問『教育実習はどんなことが勉強になりましたか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

6.実習訪問について

実習中の教員による実習園訪問には各幼稚園にご配慮いただきありがとうございます。表 9 に示しますように学生の実習訪問に対する期待も高まっています。今後も実習訪問の内容を充実していきたいと考えています。

Q6.実習訪問に関して訪問する大学教員に期待する内容や改善を望む項目など御意見が有りましたら自由にお書きください。

表9 実習訪問の必要性(構成比%)



※ 設問『実習訪問の制度をどう思いますか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

ここからは平成 29 年度前学期の幼稚園教育実習に関するアンケート結果からご意見をお聞きます。

7.実習中の登降園時間について

学生の登園時間が表 10、降園時間が表 11 です。

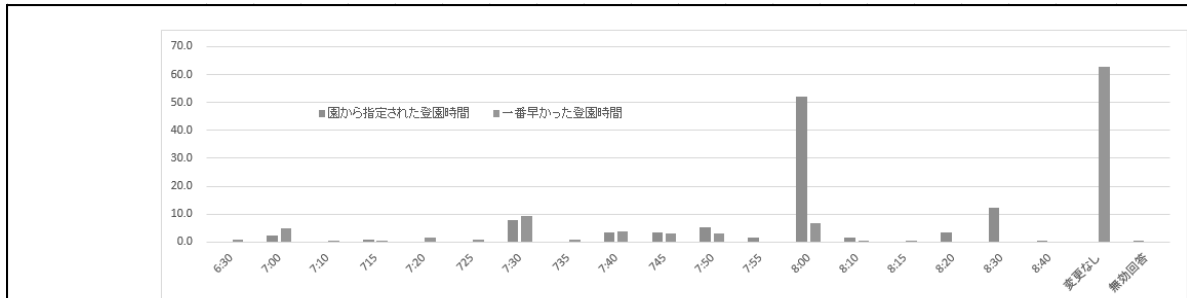


表10.登降園時間(構成比%)

時刻	6:30	7:00	7:10	7:15	7:20	7:25	7:30	7:35	7:40	7:45	7:50	7:55	8:00	8:10	8:15	8:20	8:30	8:40	変更なし	無効回答
園から指定された登園時間	-	2.5	-	1.0	-	-	7.9	-	3.4	3.4	5.4	1.5	52.2	1.5	-	3.4	12.3	0.5	-	0.5
一番早かった登園時間	1.0	4.8	0.5	0.5	1.5	1.0	9.4	1.0	3.9	3.0	3.0	-	6.9	0.5	0.5	-	-	-	62.6	-

※ 設問『実習園から指示された基本的登園時間と降園時間と実際の時間を具体的に記入してください。』

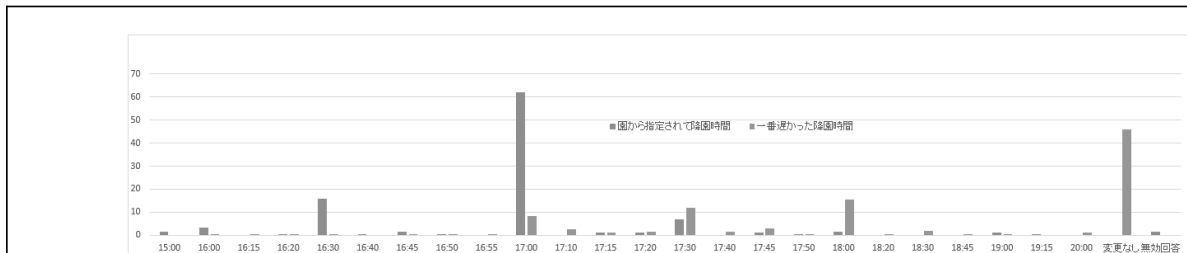


表11.降園時間(構成比%)

時刻	15:00	16:00	16:15	16:20	16:30	16:40	16:45	16:50	16:55	17:00	17:10	17:15	17:20	17:30	17:40	17:45	17:50	18:00	18:20	18:30	18:45	19:00	19:15	20:00	変更なし	無効回答
園から指定された降園時間	1.5	3.4	-	0.5	15.8	0.5	1.5	0.5	-	62.1	-	1.0	1.0	6.8	-	1.0	0.5	1.5	-	-	-	1.0	0.5	-	-	1.5
一番遅かった降園時間	-	0.5	0.5	0.5	0.5	-	0.5	0.5	0.5	8.4	2.5	1.0	1.5	11.8	1.5	3.0	0.5	15.3	0.5	2.0	0.5	0.5	-	1.0	45.8	-

Q7-1 実習中の学生の登降園時間は園の経営方針や反省会の実施状況と学生の積極的行動などによって前後することがありますが、基本的登園時間と降園時間は何時頃が望ましいとお考えでしょうか。

Q7-2 その他登降園について御意見が有りましたら自由にお書きください。

8. 実習中の睡眠について

学生の睡眠時間が表 12 で、睡眠不足の認識が表 13 です。実習中是不慣れな環境での活動と日誌の作成や翌日の準備で学生には睡眠時間が不足の傾向が見られます。

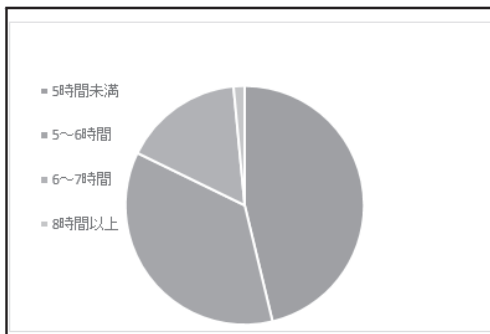


表12.睡眠時間(構成比%)

睡眠時間	5時間未満	5~6時間	6~7時間	8時間以上
睡眠時間	46.3	36.0	16.3	1.5

※ 設問『実習中の平均の睡眠時間はどれくらいでしたか。該当する番号を1つ選んでください。』

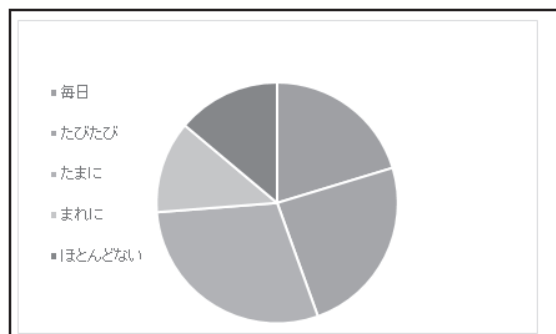


表13.睡眠不足(構成比%)

睡眠不足	毎日	たびたび	たまに	まれに	ほとんどない
睡眠不足	202	241	291	123	138

※ 設問『実習中に常に睡眠不足を感じましたか。該当する番号を1つ選んでください。』

Q8.睡眠時間不足に関連して御意見が有りましたら自由にお書きください。

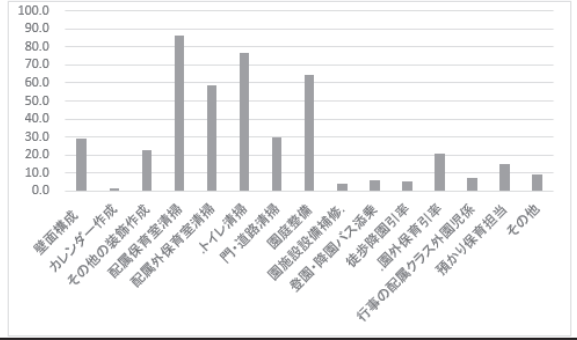
9.園務・作業等の内容について

学生が体験した園務・作業の状況が表 14 です。

Q9-1 園の運営方針によって実習生が体験できる園務や作業等の内容は多様なものになると思われませんが、ぜひ必要とお考えになる園務・作業体験をお書きください。

Q9-2 その他、御意見が有りましたら自由にお書きください。

内容	出現率%
壁面構成	29.1
カレンダー作成	1.5
その他の装飾作成	22.7
配属保育室清掃	86.2
配属外保育室清掃	58.6
トイレ清掃	76.4
門・道路清掃	30.0
園庭整備	64.5
園施設設備補修	4.4
登園・降園バス添乗	6.4
徒歩降園引率	5.4
園外保育引率	20.7
行事の配属クラス外園児係	7.4
預かり保育担当	15.3
その他	9.4



※設問『実習中に行った園務・作業等について該当する番号を幾つでも選んでください。』

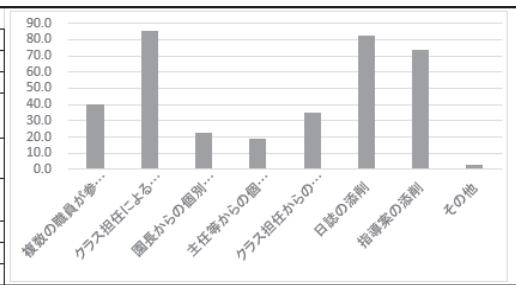
10.園から受けた指導内容

学生が受けた指導内容の状況が表 15 です。

Q10-1 幼稚園から受ける指導内容は各幼稚園の事情によって多様であると思われませんが、ぜひ必要とお考えになる指導内容をお書きください。

Q10-2 その他、御意見が有りましたら自由にお書きください。

内容	出現率%
複数の職員が参加した反省会	39.9
クラス担任による反省会	85.7
園長からの個別直接の口頭指導(反省会を除く)	22.2
主任等からの個別の口頭指導(反省会を除く)	19.2
クラス担任からの個別の直接の口頭指導(反省会を除く)	35.0
日誌の添削	82.3
指導案の添削	73.9
その他	3.0



※設問『幼稚園から受けた指導について該当する番号を幾つでも選んでください。』

11.実習日誌の返却について

日誌返却に関する状況が表 16 です。

Q11-1 実習日誌の返却は幼稚園の業務の影響もあると思われませんが、どのような返却の形がいいとお考えか、自由にお書きください。

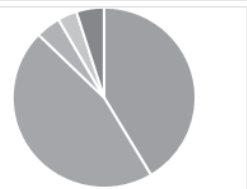
Q11-2 日誌添削後指導の指導についてどのようにお考えでしょうか。一つお選びください。

1. 添削に基づく削除(消去)・修正を求める。
2. 特に指導しない

Q11-3 その他、実習日誌について御意見が有りましたら自由にお書きください。

内容	構成比%
すぐに返却された	41.4
数日後に返却された	45.8
最後にまとめて返却された	4.4
その他	3.4
無回答・無効回答	4.9

- すぐに返却された
- 数日後に返却された
- 最後にまとめて返却された
- その他
- 無回答・無効回答



※設問『園に提出した日誌・指導案の返却時期は概ねどうでしたか。該当する番号を1つ選んでください。』

12.フェースシート

最後に統計処理のために貴幼稚園についてお聞きします。該当する番号をそれぞれ一つお選びください。

Q12-1 貴幼稚園(こども園)の所在地
1.福岡市内 2.福岡県内(福岡市を除く)

Q12-2 設置者区分
1.公立 2.私立

Q12-3 最近5年間の間に本学科の実習生を引き受けたことがある。
1.引き受けたことがある 2.引き受けたことはない 3.不明

Q12-4 (Q12-3 で 1 を選択した場合のみ御記入ください。)
本学科の教育実習学生に関して御意見・ご感想がありましたら、自由にお書きください。

御協力ありがとうございました。(回答は回答票にご記入ください。)